

国語科学習指導案

指導者 廿日市市立大野中学校
指導教諭 木村 千佳子

- 1 日 時 平成25年9月12日(木)第4校時
- 2 学年・組 第2学年1組 34名(男子19名,女子15名)
- 3 場 所 2年1組教室
- 4 単元名 職場体験短歌をつくろう

5 単元について

(1) 単元観

中学校学習指導要領・国語の第2学年「B書くこと」の目標に「目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、構成を工夫して分かりやすく書く能力を身に付けさせるとともに、文章を書いて考えを広げようとする態度を育てる。」とある。また、「書くこと」の能力を育成するために「エ 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすく分かりやすい文章にすること。」「オ 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べたり助言をしたりして、自分の考えを広げること。」を指導することとある。

本単元では、8月に行った職場体験を題材に、心を動かされたことや心に残っていることを短歌のリズムで表現させる。自分なりに創作した短歌の作品は、友だちに読んでもらい、言葉の選び方や並べ方について意見を述べてもらって、さらに表現を工夫し完成させていく。職場体験は、どの生徒も体験したことなので、表現しようとしている情景や心情について想像しやすく、深く考え意見を述べるができる。互いに作品を読み合い、友だちから意見をもらうだけでなく、自分も友だちの作品に対して助言をする。そうすることで、友だちの作品から考えたことを自分の作品に生かすこともできる。このように、短歌を創作していく学習を通して、作品を読み返し、語句の使い方などに注意して、自分の表現したいことが伝わるように書く能力を身に付けさせたり、作品を互いに読み合い、表現の仕方について意見を交流し合い、自分の考えを広げようとする態度を育てたりすることができる。

ここで創作する短歌は、用いられている言葉によって情景や心情を読み手に想像させるようなものにしたい。そこで、そのような短歌がつくれるようにするために、読み手を経験させ言葉から情景や心情を読み取る学習を行う。読み手の経験は、書き手が用いた言葉がどのように読み手の想像力を広げるかも実感させることができるので、短歌をつくる際に、どのような言葉をどのように並べるかを考えることに役立てさせることができる。「書くために読む」活動を仕組むことで、表現の仕方に注意して読む能力を身に付けさせることもできる。

(2) 生徒観

6月に行った「基礎・基本」定着状況調査によると、本学級において「国語の勉強は好きです。」と答えている生徒の割合は、59.4%、「国語の授業はよくわかります。」と答えている生徒の割合は、81.3%で、いずれも学年3学級の中で一番数値が低かった。また、「国語の授業では、伝えたいこ

との中心をはっきりさせ、組み立てを考えて文章を書いています。」と答えている生徒の割合も68.7%で、他学級の78.1%、81.8%と比べるとかなり低かった。実際に、「基礎・基本」定着状況調査の「叙述の仕方の確認」に関する問題においての通過率も25.0%とかなり低かった。一文を適切な接続語や主語を補って二文に分けるという問題だったが、適切な主語を補うことができていなかった生徒が37.5%もいた。「書くこと」の授業においても、自分の書いた文章が、自分の伝えたいことをはっきりさせた分かりやすい文章になっているか、しっかり吟味することができていない生徒が多い。

(3) 指導観

中学校学習指導要領第2学年「B書くこと」の指導事項については言語活動例「『ア 表現の仕方を工夫して、詩歌をつくったり物語を書いたりすること。』を通して指導するものとする。」とあるので、単元を貫く言語活動として「職場体験短歌をつくろう」を設定した。生徒は五日間の職場体験を行うので、その体験を短歌にして、発表させることにした。作品は、文化祭で展示し、同学年だけでなく他学年や保護者、地域の方々にも、読んでもらうことにする。作品は展示するだけでなく、宮崎県延岡市が主催する「第14回若山牧水青春短歌大賞」にも出品する。生徒は相手意識、目的意識を持って活動に取り組むことができるであろう。

まず、単元の最初に、この単元のゴールを具体的に示し、そこに至るまでの学習の見通しとその目的とを生徒に理解させる。そうすることで、一つ一つの活動への意欲を喚起したい。

それから、教科書の短歌や実際に過去の「若山牧水青春短歌大賞」に入賞した中学生の短歌を鑑賞させる。職場体験短歌においては、用いる言葉一つ一つをしっかりと吟味させたいので、そこに用いられている言葉が読み手にどのようなイメージを持たせ、短歌に描かれている情景や心情を想像させるのかを読み手の立場で味わわせ、短歌作りに生かすことができるようにさせたい。友だちの短歌への助言にも役立たせたい。

職場体験短歌は、職場体験後の宿題とした。職場体験は、生徒にとって初めての体験なので、心を動かされ、心に残る出来事も数多くあるだろうと考えられる。生徒は意欲を持って、自分の言葉で作品づくりができるであろう。その短歌を2学期に持ち寄り、互いに読み合い、意見を交流し合うことを通して、さらに作品をいいものに仕上げていく。この活動は、4人を基準とした小グループを活用する。少人数のグループは、気軽に意見を述べやすく自分の考えを広げたり深めたりするのに効果的である。そして、少人数グループで交流したことをもとに、自分の作品に用いられている言葉を吟味し作品を完成させていく。短歌は、全部で31音の短い定型詩である。その言葉一つ一つに注目させ、友だちの作品や自分の作品の表現についてしっかりと吟味させたい。

本単元では、他者の力も借りながら、自分の表現したいことが伝わるように書く能力を身に付けさせていくが、このような活動を積み重ねていく中で、文や文章を書くときはいつでも、読み手を意識し、自分の書いた文章を自分自身で「推敲」できるようにしていきたい。

7 単元目標

○短歌の表現の工夫について考え、表現したいことが伝わるように意欲を持って書こうとする。

【国語への関心・意欲・態度】

○つくった短歌を読み返し、語句の使い方などに注意して、自分の表現したいことが伝わるように書くことができる。

【B書くこと(1)エ】

○作品を互いに読み合い，表現の仕方についての意見の交流で気付かされたことを自分の表現に役立てることができる。 【B書くこと（1）オ】

○情景や心情を表す語句に注意して，短歌を読み味わうことができる。 【C読むこと（1）ア】

○心情を表す語句や類義語，多義語などについて理解し，適切に使用することができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ（イ）】

8 評価規準

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
○短歌の表現の工夫について考えようとしている。 ○表現したいことが伝わるように意欲を持って書こうとしている。	○つくった短歌を読み返し，語句の使い方などに注意して，自分の表現したいことが伝わるように書いている。 ○作品を互いに読み合い，表現の工夫についての意見の交流で気付かされたことを自分の表現に役立てている。	○情景や心情を表す語句に注意して，短歌を読み味わっている。	○心情を表す語句や類義語，多義語などについて理解している。 ○心情を表す語句や類義語，多義語などについて適切に使用している。

9 指導計画および評価計画（全6時間）

次 (時)	学習内容および活動	評 価				評価規準	評価方法
		関	書	読	言		
1 (1)	○学習の目標を確認し，学習の見通しを持つ。 ○短歌の鑑賞のポイントをつかむ。	○				○短歌の表現の工夫について考えようとしている。	観察 自己評価 カード
2 (2)	○「若山牧水青春短歌大賞」入賞作品を読み，表現から，情景や心情を想像する。	○		◎	○	○短歌の表現の工夫について考えようとしている。 ◎情景や心情を表す語句に注意して，短歌を読み味わっている。 ○心情を表す語句や類義語，多義語などについて理解している。	観察 ノート 自己評価 カード
	○「短歌五首」を鑑賞する。			◎	○	○短歌の表現の工夫について考えようとしている。 ◎情景や心情を表す語句に注意して，短歌を読み味わっている。	観察 ノート 自己評価 カード
3 (2)	○つくってきた「職場体験短歌」を互いに読み合い，表現の工夫について意見を述べ合う。【本時】	○	◎			○短歌の表現の工夫について考えようとしている。 ○作品を互いに読み合い，表現の工夫についての意見の交流で気付かされたことを自分の表現に役立てている。	観察 ワークシート 自己評価 カード

	○前時の交流を参考にし て、語句の使い方などに 注意して、「職場体験短 歌」を書き直す。	○	◎	○	○表現したいことが伝わるように意欲を 持って書こうとしている。 ◎つくった短歌を読み返し、語句の使い 方などに注意して、自分の表現したい ことが伝わるように書いている。 ○心情を表す語句や類義語、多義語など について適切に使用している。	ワークシ ート（作 品） 自己評価 カード
4 (1)	○「職場体験短歌」鑑賞会 を開く。	○			○短歌の表現の工夫について考えようと している。	観察

10 本時の展開

(1) 本時の目標

○短歌の作品を互いに読み合い、表現の工夫について意見を交流することを通して、自分の作品の表現を見直すことができる。

(2) 本時の評価規準

○短歌の表現の工夫について考えようとしている。 【国語への関心・意欲・態度】

○作品を互いに読み合い、表現の工夫についての意見の交流で気付かされたことを自分の表現に役立てている。 【書く能力】

(3) 準備物

- ・ワークシート、評価カード

(4) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点 ●努力を要すると判断される生徒への手だて 主な発問	評価規準 (評価方法)
1. 前時の学習を想起し、本時の学習課題を確認する。	○ 学習課題・目標・評価の観点を明確にし、学習への心構えを持たせる。	
見通しを持つ	本時の目標 作品の表現について友達からもらった意見をどのように作品に生かすか、考えたことを書くことができる。	
	つくってきたそれぞれの作品の表現について、友だちと意見を交流しましょう。	
	○ つくった短歌の表現の中で、この表現でいいかどうか迷っている表現を挙げさせ、それについて「いいね」または「もう少し」の評価とその評価の理由を4人の小グループ内の生徒からもらうことを伝える。 ○ 具体的にはどのようなことを挙げればよいのか、1つ短歌を例示し、理由を挙げる練習をさせる。 ○ 「情景や心情について、読み手が想像を広げたいくなるような表現になっているかどうか」「リズムはどうか」という視点で考えることを伝える。	

自分の考えを持つ	2. 「いいね」または「もう少し」を挙げ、その理由をワークシートに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4人の小グループに分かれ、次の手順で活動させる。 ① 作者は、一人ずつ、作品で表現したかった心情や情景と、この表現でいいかどうか検討してほしい作品中の表現を説明する。 ② ひととおり作者の説明を聞いたあと、作者が検討してほしいと挙げた表現について「いいね」か「もう少し」かどうか考え、その理由をワークシートに書く。 ○ 作者には、なぜ、その表現について迷っているのか、ほかにどんな表現を思いついていたのかも説明させる。 ○ 検討する表現以外にも「いいね」と思う表現があれば、挙げさせる。 ● 「いいね」「もう少し」の評価はできているが、理由が書けない生徒には、「なぜ、そう思う？」と問いかけて考えさせる。 ● 「いいね」「もう少し」の評価もできていない生徒には、「この表現で、作者が説明していた心情や情景が想像できる？」「リズムはどう？」など問いかけ、評価をさせる。 	○短歌の表現の工夫について考えようとしている。【国語への関心・意欲・態度】（ワークシート）
考えを交流する	3. 書いたものをもとに小グループで交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループリーダーに司会をさせ、次の手順で活動させる。 ① 1つの短歌について、グループ全員で「いいね」「もう少し」の評価とその理由を述べる。 ② 全ての評価が済んだら、「もう少し」の評価が一人でもあった表現について、さらに意見交流し、どのようにすればよいか、アドバイスする。 ● 「もう少し」について、どのようなアドバイスをすればよいか意見が出てこないグループには、他グループで出たいい意見を紹介する。 ● どの短歌に対しても「もう少し」の評価がなく、意見交流が進まない場合は、作者がどちらの表現で書くか迷っていたものについて検討させたり、授業者が、「ほんとうにこの表現で想像が広がるか？」など投げかけたりして考えさせる。 	
さらに考えを深める	5. みんなの意見をもとに、自分の作品を見直す。	○ どこをどのように書き直すか考えさせる。	
振り返る	6. 本時のまとめ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達からもらった意見をどのように作品に生かすか、考えたことを書かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>生徒のまとめ（例） ぼくは、保育園での外遊びで、園児からブランコを押してくれと頼まれてずっと押し続けてしんどかったことを表現した短歌をつくりました。 「強く押します」というところが気に入らなくて、迷っていたら、友だちから・・・。</p> </div>	○作品を互いに読み合い、表現の工夫についての意見の交流で気付かされたことを自分の表現に役立てている。【書く能力】（ワークシート）
	7. 本時を振り返り、次時につなげる。	○ 次時は、本時の学習を受けて短歌を書き直し、完成させることを伝える。	

(5) 板書計画

本時の目標

作品の表現について友達からもらった意見をどのように作品に生かすか、考えたことを書くことができる。

(表現したい情景・心情)

保育園の外遊びで、園児からブランコを押して押してと頼まれて、ずっと押し続けてとてもしんどかったことを表現した。

ブランコを 「押して押して」と せがまれて

強く押した とてもしんどい

四句と結句の表現が気になる

もう少し

・「強く押した」 リズムが悪い

・「強く押した」 「強く」は直接的

・「とてもしんどい」 気持ちをそのまま表現していて想像が広がらない。

ブランコを 「押して押して」と せがまれて

力いっぱい これが限界

交流の手順

- ①「作品で表現したい情景・心情」と「気になっているところ」の説明をする。
- ②全員の説明がすんだら、「いいね」「もう少し」とその理由を書く。
- ③作品の評価。(一首ずつ)
- ④さらに交流。

【交流のポイント】

- ・想像が広がるか。(直接過ぎない・ぼやけすぎない)
- ・リズムはいいか。

まとめ

友だちの意見をどのように生かすか、書こう。